

# PECB.ISO-31000-Lead-Risk-Manager.v2026-05-20.q28

試験コード : ISO-31000-Lead-Risk-Manager  
試験名称 : PECB ISO 31000 Lead Risk Manager  
認証ベンダー : PECB  
無料問題の数 : 28  
バージョン : v2026-05-20  
ページの閲覧量 : 104  
問題集の閲覧量 : 280

<https://www.jpnsiken.com/shiken/PECB.ISO-31000-Lead-Risk-Manager.v2026-05-20.q28.html>

## 質問: 1

### シナリオ2:

バンビーノはイタリアのフィレンツェに本社を置く家具メーカーで、テーブル、椅子、子供用ベッド、棚、マット、おむつ交換台、室内用プレイハウスなど、保育施設向け家具を専門としています。サプライチェーンの大規模な混乱により遅延が発生し、オペレーションの脆弱性が明らかになったことを受け、バンビーノはリスクを体系的に特定、評価、管理するために、ISO 31000ガイドラインに基づくリスク管理フレームワークとプロセスを導入することを決定しました。

このプロセスの最初のステップとして、経営陣は、リスク認識、コミュニケーション、構造化された実践が日常の意思決定の一部となるように、フレームワークの導入と会社の業務への統合を促進するために、バンビーノの業務マネージャーであるルカを任命しました。ルカは就任後、各部門における責任と意思決定の分担を見直しました。各部門は、戦略、管理、運営に関わる事項を担当するディレクターによって統括されています。同時に、経営陣と協議しながら、バンビーノのより広範な環境、すなわちミッション、ガバナンス、文化、リソース、情報の流れ、ステークホルダーとの関係を分析しました。

これを踏まえ、ルカはステークホルダーの関与、プロセスの段階的分割、そして目標と会社の目標の整合性を図ることで、リスク管理を強化するための具体的なアクションを概説しました。進捗状況は既存のシステムを通じて追跡され、タイムリーな調整が可能になりました。さらに、明確な目標がミッションと戦略に紐付けられ、責任が明確化され、リーダーシップがコミットメントを示し、日々の統合に対する期待が明確化されました。最後に、人材、スキル、テクノロジーのためのリソースが割り当てられ、コミュニケーション、報告、エスカレーションのメカニズムがサポートされました。

さらに、ルカ氏は、子供用製品に関する安全法、現地の労働規制、事業運営に必要な許可など、会社が遵守すべき要件を見直しました。また、サステナビリティラベルや保育施設との契約といった自主的な取り組みについても検討しました。この見直しを通じて、これらの要件を満たさなかった場合に発生する可能性と、法的罰則から顧客の信頼失墜に至るまでの潜在的な結果を特定し、この領域がリスク要因となることを明確化しました。これには、

製品安全法違反に対する罰金、労働規制違反に対する制裁、そしてサステナビリティや契約上のコミットメントが履行されなかった場合の評判の低下などが含まれます。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に答えてください。

シナリオ2では、ルカは会社のリスク管理能力を強化するための具体的な一連の行動計画を策定しました。このケースでは、彼はどのような行動をとったのでしょうか？

- A. リスク管理方針
- B. リスク管理計画
- C. リスク対応計画
- D. リスクレジスタ

正解: B ([コメントを発表する](#))

正解はBです。リスクマネジメント計画です。ISO 31000:2018では、リーダーシップのコミットメントと状況が確立された後、組織は構造化され調整された行動を通じてリスクマネジメントの枠組みを設計し、実施しなければならないと規定されています。リスクマネジメント計画は、戦略的な意図を実践的で実行可能なステップへと落とし込み、リスクマネジメントを日常業務に統合することを可能にします。

シナリオの中で、ルカはステークホルダーのエンゲージメント、プロセスの段階的分割、組織目標と目標の整合、既存システムによる進捗状況の追跡、責任の明確化、リソースの配分、コミュニケーション、報告、エスカレーションの仕組みの構築といった具体的なアクションを概説しました。これらの要素が一体となってリスク管理計画を形作り、組織全体におけるリスク管理の実施、監視、改善方法を規定します。

リスク管理方針は通常、リスク管理に関する経営トップのコミットメント、原則、そして全体的な方向性を示すハイレベルの声明です。このシナリオでは経営陣がコミットメントを示しましたが、ルカの活動は方針策定にとどまらず、実行に重点を置きました。

リスク対応計画は、リスク管理プロセスの後半で策定され、個々のリスクを修正するための行動に特に焦点を当てています。シナリオ2では、ルカの研究ではフレームワークと統合レベルが取り上げられており、特定のリスクへの対応は取り上げられていません。同様に、リスク登録簿も記録ツールであり、一連の行動ではありません。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、リスクマネジメント計画の策定は、リスクマネジメントが統合され、構造化され、持続可能であることを保証するための重要なステップです。したがって、正解は「リスクマネジメント計画」です。

質問: 2

リスク管理フレームワークの改善に関して、有効性はどのように定義されますか？

- A. リスク管理フレームワークを組織の構造、業務、文化、ビジネスシステムと完全に整合させる
- B. リスク管理フレームワークが適切に実施されている程度
- C. リスク管理フレームワークの意図された成果の達成
- D. 特定され文書化されたリスクの数

正解: C ([コメントを発表する](#))

正解はCです。リスクマネジメントフレームワークの意図した成果の達成です。ISO 31000:2018では、有効性とは、計画された活動がどの程度実行され、計画された成果がどの程度達成されたかと定義されています。リスクマネジメントフレームワークの改善という文脈において、有効性とは、意思決定の改善、レジリエンスの向上、価値の保護と創造など、フレームワークが意図した成果を達成しているかどうかを指します。

オプションAは整合性について言及しており、有効性をサポートするものではありません。オプションBは実施状況について言及しており、進捗状況は示しますが、目標達成の有無は測定しません。オプションDは定量的な活動指標であり、有効性を反映しません。

ISO 31000は、リスク管理フレームワークの継続的な改善は、モニタリング、レビュー、そして学習に基づいて行われ、意図した成果が長期的に達成されることを保証すべきであると強調しています。PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、有効性は成果に焦点を当てているため、選択肢Cが正解となります。

### 質問: 3

リスク管理に関連する記録の例は何ですか？

- A. インシデントおよび監査レポート
- B. リスク管理方針とリスク対応計画
- C. リスク登録簿とリスク評価手順
- D. 組織戦略文書

正解: ([正解を表示します](#))

正解はAです。インシデント報告書と監査報告書です。ISO 31000は、リスクマネジメントにおける記録、文書、手順を区別しています。記録は、活動が実施されたことの証拠を提供し、事象、評価、レビューの結果を記録します。

インシデント報告書と監査報告書は、実際に何が起こり、何が発見され、どのような措置が講じられたかを記録するため、リスク管理記録の典型的な例です。これらの記録は、事象からの学習、傾向の監視、そして管理とプロセスの改善に役立ちます。

オプションBは、イベントや結果の記録ではなく、意図と計画された行動を定義する正式な文書を指します。オプションCにはリスク登録簿が含まれます。リスク登録簿には記録と作業文書の両方が含まれる場合がありますが、「リスク評価手順」は手順文書であり、記録ではありません。オプションDは、リスク管理記録ではなく、戦略計画に関連します。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、記録とポリシーおよび手順を区別することは、効果的な文書化とガバナンスにとって非常に重要です。したがって、正しい答えはインシデント報告書と監査報告書です。

### 質問: 4

シナリオ5:

クレストビュー大学は著名な学術機関であり、最近、遠隔教育を支援するデジタル学習プラットフォームを導入しました。このプラットフォームは、ビデオ講義、インタラクティブ

な評価、学生データ管理を統合しています。初期導入後、リスク管理チームは、研究データへの不正アクセス、システム障害、データプライバシーに関する懸念など、いくつかの主要なリスクを特定しました。

これらの問題に対処するため、チームは複数のリスク対応策を検討しました。プラットフォームの機能制限も検討しましたが、大学の目標と相反しました。そこで、信頼できるサイバーセキュリティ企業と提携し、サイバー保険に加入することを決定しました。また、サーバー容量のアップグレードと冗長システムの導入により、システム停止の可能性を低減する計画も立てました。時折発生する軽微なソフトウェアの不具合など、一部のリスクについては、クレストビューの業務に大きな影響がないため、慎重に評価した結果、現状維持としました。チームはこれらのリスクは管理可能と判断し、後日モニタリングと対応を行うことで合意しました。そのため、受け入れ可能なリスクを文書化し、現時点では関係者への通知は行わないことにしました。

対策オプションが選定されると、クレストビューのリスク管理チームは詳細なリスク対策計画を策定しました。リスクが最も高いプロセスに基づいて対策の優先順位を決定し、サイバーセキュリティ対策が最優先で実施されるようにしました。この計画では、対策の承認と実施におけるチームメンバーの責任を明確に定義し、予算や人員などの必要なリソースを特定しました。また、監督体制を強化するため、パフォーマンス指標とモニタリングスケジュールを設定し、定期的に進捗状況を大学の経営陣に報告しました。

リスク管理プロセス全体を通じて、すべての活動と決定は徹底的に文書化され、正式なチャネルを通じて伝達されました。これにより、部門間の明確なコミュニケーションが確保され、意思決定が支援され、リスク管理の継続的な改善が実現し、リスクを管理・監視するステークホルダー間の透明性と説明責任が促進されました。データや手法の限界、不確実性の程度、調査結果の信頼度など、リスク評価の結果を伝える際には特別な配慮が払われました。報告においては、確実性の誇張を避け、適切かつ明確に定義された単位で定量化可能な指標が含まれました。標準化されたテンプレートを使用することで、文書作成が効率化されました。また、リスク対応の変更、新たなリスク、優先順位の変更などの更新は、記録を最新の状態に保つためにシステムに定期的に反映されました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に教えてください。

シナリオ 5 に基づいて、部門間の明確なコミュニケーションを促進し、意思決定をサポートし、継続的な改善を可能にし、利害関係者間の説明責任を育むアクションに反映されているのは、リスク管理プロセスのどのステップですか。

- A. 記録と報告
- B. 監視とレビュー
- C. コミュニケーションと協議
- D. リスク評価

正解: **A (コメントを発表する)**

正解はA. 記録と報告です。ISO 31000:2018は、記録と報告がリスクマネジメントにおける透明性、説明責任、情報に基づいた意思決定、そして継続的な改善を支える重要な活動であることを強調しています。記録は、リスク、意思決定、仮定、そして対応策に関する情報が体

系的に記録されることを保証し、報告は、これらの情報が適切なステークホルダーに伝達されることを保証します。

シナリオ5では、クレストビュー大学は、すべての活動と意思決定が標準化されたテンプレートを用いて徹底的に文書化され、更新がシステムに反映され、報告書には限界、不確実性、信頼度レベルが含まれていることを確認しました。これらの特徴は、リスク管理プロセスの記録と報告のステップと直接的に一致しています。ISO 31000では、記録と報告はガバナンス、監督、そして継続的な改善を支援するものでなければならないと明確に規定されています。

選択肢Bは不正解です。モニタリングとレビューは、主に文書化とコミュニケーションではなく、パフォーマンスと経時的な変化の追跡に重点を置いているためです。選択肢Cは不正解です。コミュニケーションと協議は、正式な文書化よりも、ステークホルダーとのエンゲージメントと対話を重視しているためです。選択肢Dは不正解です。リスク評価は、分析されたリスクを基準と比較するためです。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、トレーサビリティと学習を確保するには、構造化された記録と報告が不可欠です。したがって、正しい答えは「記録と報告」です。

#### 質問: 5

組織は外部コンテキストを調査する際にどの要素を分析する必要がありますか？

- A. 契約関係と義務
- B. 社内ポリシーと手順
- C. 組織が採用している標準、ガイドライン、モデル
- D. 組織の目標に影響を与える主要な推進要因と傾向

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。組織の目標に影響を与える主要な推進要因と傾向です。ISO 31000:2018では、リスクマネジメントプロセスの一環として、組織は外部状況を把握することが求められています。外部状況には、組織の目標達成能力に影響を与える外部要因が含まれます。ISO 31000によると、外部環境の分析には、政治、経済、社会、技術、法務、環境、市場関連の要因の分析が含まれます。これらは、規制の変更、経済状況、市場動向、技術開発など、主要な推進要因やトレンドと呼ばれることがよくあります。

オプションAは、外部環境ではなく、内部ガバナンスと方法論の選択に関係します。オプションBの契約関係は、外部の当事者が関与する場合がありますが、内部の義務や取り決めに関連する場合は、一般的に組織の内部コンテキストの一部とみなされます。オプションDは、明らかに内部コンテキストの要素に言及しています。

PECB ISO 31000 主任リスクマネージャーの観点から見ると、外部要因とトレンドを理解することは、新たなリスクと機会を予測し、適切なリスク基準を設定するために不可欠です。したがって、正解は、組織の目標に影響を与える主要な要因とトレンドです。

#### 質問: 6

シナリオ7:

ベルギーのゲントに本社を置くチョコレートメーカー、マキシムは、トフィー、エクレア、エンローブチョコレート、キャラメルなどを製造しています。2023年、キャラメルラインにおける異物混入事故がきっかけとなり、ヨーロッパ全域で大規模な製品リコールが発生し、サプライヤー評価、報告チャネル、危機管理コミュニケーションの弱点が露呈しました。この事故が財務、業務、そして風評に及ぼす影響を認識し、経営陣はISO 31000に準拠したリスク管理プロセスを導入することを決定しました。その目的は、レジリエンス（回復力）を強化し、部門全体にリスク認識を浸透させ、日常業務と長期戦略の両方においてリスクが体系的に管理されるようにすることでした。

リスク管理プロセスの有効性を確保するため、マキシムは、サプライヤーの信頼性、食品安全、コミュニケーションといった主要なリスクに関するデータを収集・分析するための明確な手順を備えた、構造化された監視・レビュープロセスを構築しました。測定方法の検証については、品質保証責任者のソフィーが、使用されているツールがプロセスの有効性を評価するのに適切かどうかを評価する任務を負いました。

さらに、マキシム社は重要な領域全体にわたって早期警告指標を提供するための一連の対策を導入しました。運用面では、生産ラインの停止回数と不良品バッチの割合を追跡しました。財務面では、原材料価格、特にカカオの価格変動とその利益率への影響を監視しました。規制関連事項については、検査で発見された不適合の頻度を追跡しました。技術面では、自動包装ラインのシステムダウンタイムを測定しました。

これらの指標が効果的に伝達されるよう、ソフィーは経営陣と協力し、変化が分かりやすく、かつ容易に把握できる形式で結果を提示しました。静的なレポートだけに頼るのではなく、主要な値を視覚的に表示し、逸脱をハイライト表示し、閾値を超えた際にアラートを発する、より動的なアプローチを採用しました。

さらに、マキシムは、関係するステークホルダーが適切に関与できるよう、明確なコミュニケーションと協議のプロセスを確立しました。経営陣は、タスク遂行の責任者、最終責任者、専門知識の相談先、そして情報提供を受ける必要がある人を明確にするアプローチを採用しました。関与を強化するため、マキシムはリスク情報を様々な対象者に提供する方法も整備しました。従業員はチームブリーフィングや社内プラットフォームを通じて最新情報を受け取り、サプライヤーや規制当局などの外部関係者には正式な報告書や直接のやり取りを通じて情報を提供しました。このアプローチにより、各グループがそれぞれに最も関連性の高い情報にタイムリーにアクセスできるようになりました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に教えてください。

品質保証責任者のソフィーにはどのような役割が割り当てられましたか？

- A. 情報アナリスト
- B. 測定プランナー
- C. 測定レビュー担当者
- D. リスクオーナー

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。測定レビュー担当者。ISO 31000では、モニタリングとレビュー活動はデータ収集だけでなく、測定方法とツールが長期にわたって適切、信頼性があり、有効であることを保証するものでなければならないと強調されています。これには、指標、測定基準、モニタリングメカニズムがリスクパフォーマンスを真に反映し、意思決定を支援しているかどうかを検証することが含まれます。

シナリオ7では、ソフィーは、使用されたツールがリスク管理プロセスの有効性を評価するのに適切かどうかを明確に評価する任務を負っていました。この責任は、測定方法の設計や生データの分析ではなく、測定方法を評価し検証する測定レビュー担当者の役割と直接的に一致しています。

測定プランナーは指標の設計と測定方法の定義を担当しますが、これはソフィーの主な業務ではありません。情報アナリストは、測定の適切性を検証するのではなく、データの解釈と洞察の創出に重点を置きます。リスクオーナーは特定のリスクの管理に責任を負いますが、これはソフィーの役割には含まれていませんでした。

ISO 31000およびPECB ISO 31000主任リスク管理者ガイダンスでは、効果的なモニタリングとレビューには、測定の適切性に関する独立した客観的な評価が必要であり、内部および外部の状況が変化しても指標の妥当性を維持することが求められていると強調されています。ソフィーは、ツールの検証と動的ダッシュボードのサポートに携わることで、レビュー担当者としての役割をさらに強化しています。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、測定レビュー担当者を任命することで、モニタリング結果への信頼性が高まり、継続的な改善が促進され、ガバナンス監視が強化されます。したがって、正解は「測定レビュー担当者」です。

## 質問: 7

### シナリオ6:

トランロールは、イリノイ州シカゴに本社を置くファストフードチェーンで、ラップ、ブリトー、クイックサービススナックを専門に取り扱っており、直営店とフランチャイズ店の両方で複数の州に展開しています。同社は最近、2つの大きなリスクを特定しました。1つは、サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存度が高まっていることです。これは、契約不履行や料金の急騰により顧客サービスに支障をきたす可能性があります。もう1つは、厳格な安全衛生検査によって、一部のフランチャイズ店舗における衛生習慣の脆弱性が明らかになる可能性があるという点です。そのため、トランロールの経営陣は、ISO 31000ガイドラインに基づく構造化されたリスク管理プロセスを導入し、リスクを体系的に特定、評価、軽減することで、日常業務にリスク認識を浸透させ、将来の混乱に対するレジリエンスを強化しています。

これらのリスクに対処するため、トランロールは明確な行動計画を策定し、責任と期限を明確に定めて文書化しました。サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存に関しては、顧客体験のコントロールを失うリスクとコスト上昇のリスクが潜在的なメリットを上回ったため、サードパーティのデリバリーアプリとの計画的な提携を断念しました。

フランチャイズ全体で厳格な衛生検査が実施される中、トランロールは衛生プロトコルの強化、従業員研修の義務化、監視システムのアップグレードに投資し、違反の可能性を低減しました。しかし、経営陣はこれらの対策を講じて、依然としてリスクが残ることを認識していました。このリスクに対処するため、保険手段の一つとして、予期せぬ損失や罰金に備えて社内の資金を留保し、残存リスクを許容範囲内に抑えることにしました。

さらに、Trunrollはリスク記録を文書化・管理するためのクラウドベースのプラットフォームを構築しました。これにより、マネージャーはサプライヤーの検査結果、トレーニングの成果、インシデントレポートを1つの安全なシステムに記録できるようになりました。また、基盤となるインフラストラクチャを管理することなく、必要に応じてアプリケーションを更新・拡張できる柔軟性も確保しました。これにより、Trunrollはすべてのリスク関連情報を進捗報告書に記録し、中間評価と最終評価に組み込むとともに、リスク管理を定期的に更新して変更と対応状況を監視できるようにしました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に教えてください。

Trunroll社は、リスク関連情報をすべて進捗報告書に記録し、中間評価と最終評価に組み入れました。このケースでは、リスク報告についてどの組織レベルを考慮しましたか？

- A. 企業レベル
- B. プログラム/ユニットレベル
- C. プロジェクトレベル
- D. 個人レベル

正解: **A** ([コメントを发表する](#))

正解はA. 企業レベルです。ISO 31000は、リスク報告が適切な組織レベルにおけるガバナンス、監督、そして戦略的意思決定を支援するものであるべきであると強調しています。企業レベルのリスク報告は、組織全体のリスク情報を統合し、中間評価および最終評価に反映させることで、経営トップと監督機関がパフォーマンスとリスクへのエクスポージャーを監視できるようにします。

シナリオ6では、Trunrollはリスク関連情報が進捗報告書、中間評価、最終評価に組み込まれ、リスク管理が定期的に更新されていることを確認しました。これらの活動は、組織全体のリスク、戦略目標、レジリエンスに焦点を当てた企業レベルの報告の特徴です。

プログラムレベルまたはユニットレベルの報告は特定の部署または機能に焦点を当てますが、プロジェクトレベルの報告は、期限が定められた特定のプロジェクトに限定されます。このシナリオでは、経営トップの監督を支援するために組織全体の報告が明確に示されています。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、企業レベルのリスク報告は、戦略、説明責任、そして継続的な改善との整合性を確保します。したがって、正解は企業レベルです。

質問: 8

ISO/TS 31050は何を提供しますか？

- A. リスク評価手法の選択と適用に関するガイドライン

B. リスク管理に関する基本語彙

C. 組織が直面する新たなリスクを管理するためのガイドライン

D. リスク管理フレームワークを確立するための要件

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。組織が直面する新たなリスクを管理するためのガイドラインです。ISO/TS 31050は、ISO 31000を補完する技術仕様であり、変化し続け、不確実で、まだ十分に理解されていないリスクである新たなリスクの特定、評価、管理に関するガイダンスを提供します。

新興リスクは、高い不確実性、限られた過去データ、そして潜在的に重大な影響を特徴としています。ISO/TS 31050は、先見性、早期検知、そして適応的な意思決定を強化することで、組織のレジリエンス強化を支援します。これは、リスクマネジメントに対する動的、反復的、かつ将来を見据えたアプローチを重視するISO 31000と密接に整合しています。

オプション A は、リスク評価手法の選択と適用に関するガイドラインが ISO/TS 31050 ではなく ISO/IEC 31010 で提供されているため、正しくありません。オプション B も、リスク管理に関連する基本的な用語が ISO ガイド 73 でカバーされており、ISO 規格全体で使用される主要なリスク管理用語を定義しているため、正しくありません。

選択肢Dは不正解です。ISO/TS 31050はリスクマネジメントフレームワークの構築に関する要件を規定していません。ISO 31000自体は原則、フレームワーク、プロセスに関するガイダンスを提供していますが、ISO/TS 31050は、その広範なフレームワークにおける新たなリスクの課題に特に焦点を当てています。

PECBの主任リスク管理者の観点から見ると、ISO/TS 31050は、急速な変化、技術革新、規制の進化、地政学的不確実性を特徴とする環境において特に重要です。これは、リスクマネジメントにおいて変化を予測、検知、認識し、タイムリーに対応すべきであるというISO 31000の原則を補強するものです。

質問: 9

再生可能エネルギー会社が、発電システムにおける潜在的リスクを検討するため、ファシリテーターによるワークショップを実施しています。ファシリテーターは、もし〜だったら?」 どうすれば?」といったガイドワードやヒントを用いて、参加者に考えられる原因、結果、そして既存の対策について議論を促しています。以下のどのリスク特定手法が適用されていますか?

A. チェックリスト、分類、タクソノミー

B. 故障モード影響解析 (FMEA)

C. 構造化What-Ifテクニック (SWIFT)

D. デルファイ技法

正解: C ([コメントを發表する](#))

正解はCです。構造化What-If技法 (SWIFT)。SWIFTは、ファシリテートされた構造化されたリスク特定技法であり、もし...だったら?」や どうすれば...できるだろうか?」といった

ガイドワードやプロンプトを用いて議論を促し、潜在的なリスク、原因、結果、そして既存の管理策を特定します。

このシナリオでは、ファシリテーターがワークショップ中にガイドワードと自由形式のプロンプトを明示的に使用しており、これはSWIFTの特徴です。ISO 31000を補完するISO 31010では、SWIFTは、特に時間やリソースが限られている場合のワークショップやグループディスカッションに適した、柔軟で協調的な手法であると説明されています。

チェックリストや分類法は、対話型の質問ではなく、事前に定義されたリストに基づいています。FMEAは、自由回答形式のファシリテートされた議論ではなく、体系的な、多くの場合コンポーネントレベルの分析によって故障モードとその影響を特定することに重点を置いています。デルファイ法は、複数回実施される匿名の専門家アンケートを用いて行われますが、これは前述のワークショップ形式とは一致しません。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、SWIFTは特に早期段階のリスク特定と部門横断的なステークホルダーの関与に役立ちます。したがって、正解は構造化What-If手法（SWIFT）です。

#### 質問: 10

危険とリスクの違いは何ですか？

- A. 危険とは危害が発生する可能性であり、リスクとは危害を引き起こす可能性のある物理的な物体または活動です。
- B. 危険とは危害を引き起こす固有の可能性であり、リスクとは危害が発生する可能性と影響です。
- C. ハザードはリスクと同じであり、両方の用語は同じ意味で使用できます。
- D. 危険は安全管理にのみ存在し、リスク管理には存在しません。

正解: ([正解を表示します](#))

正解はBです。ハザードとは危害を引き起こす固有の可能性であり、リスクとはその危害が発生する可能性と影響のことです。ISO 31000では、リスクは不確実性が目標に及ぼす影響と定義されており、多くの場合、結果と発生可能性の組み合わせで表現されます。一方、ハザードとは、危害を引き起こす可能性のある発生源または状況を指します。

ハザードは実際に危害が発生するかどうかに関わらず存在しますが、リスクは発生確率と結果の重大性の両方を考慮します。この区別は、効果的なリスクの特定と分析に不可欠です。ハザードはリスクの源泉となる可能性があります。不確実性、発生確率、および影響が考慮されない限り、それ自体はリスクとは言えません。

選択肢Aは定義が逆になっており、誤りです。選択肢CはISO規格がハザードとリスクを明確に区別しているため、誤りです。選択肢Dも誤りです。ハザードは安全管理だけでなく、多くのリスク管理の文脈に関連しているためです。

この違いを理解することで、構造化された包括的なリスク管理というISO 31000の原則がサポートされ、リスクの原因を特定し、その潜在的な影響を評価する際の明確性が確保されます。

質問: 11

リスク管理において記録を保持する主な目的の1つは何ですか？

- A. リスクに関する情報を意思決定者にのみ伝える
- B. リスク管理のパフォーマンスを追跡し、検証のための監査証跡を提供する
- C. すべてのリスクが完全に排除されているという確信を与える
- D. 監視とレビューの必要性をなくす

正解: ([正解を表示します](#))

正解はBです。リスク管理のパフォーマンスを追跡し、検証のための監査証跡を提供するためです。ISO 31000:2018は、適切な記録の維持が効果的なリスク管理の基本要素であることを強調しています。記録は、透明性、説明責任、トレーサビリティ、そして継続的な改善を支えます。

リスク管理記録は、組織がリスク管理活動の有効性とパフォーマンスを経時的に追跡することを可能にします。特定されたリスク、評価、対応決定、モニタリング結果、およびレビューを文書化することで、組織はリスク管理プロセスが意図したとおりに機能しているか、そして目標が達成されているかを評価できます。

さらに、記録を保管することで監査証跡が確保され、内部および外部のレビュー担当者は、リスク管理の意思決定が体系的かつ証拠に基づき、確立された基準とガバナンス要件に沿って行われたことを検証できます。これは、規制産業やデューデリジェンスを実証する上で特に重要です。

選択肢Aは誤りです。記録は単なるコミュニケーションではなく、より広範な目的、つまり学習、検証、そして改善を支援する役割を果たします。選択肢Cは誤りです。ISO 31000はリスクを完全に排除することはできないと明確に認識しています。選択肢Dは、記録が監視とレビューを補完するものであり、置き換えるものではないため、ISO 31000と矛盾しています。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、適切に管理された記録は、ガバナンス、保証、そして継続的な改善に不可欠です。したがって、リスク管理のパフォーマンスを追跡し、検証のための監査証跡を提供することが正解です。

質問: 12

リスク測定に必要なデータの収集、記録、保存の責任者は誰ですか？

- A. 情報収集者
- B. 測定クライアント
- C. 情報所有者
- D. リスクオーナー

正解: ([正解を表示します](#))

正解はA. 情報収集者です。ISO 31000は、特にデータと情報の管理に関して、監視およびレビュープロセスにおける明確に定義された役割と責任の重要性を強調しています。

情報収集者は、リスクの測定と監視に使用されるデータの収集、記録、保管を担当します。これには、リスク指標、インシデント、統制パフォーマンス、監査、検査、その他の関連情報

源に関するデータの収集が含まれます。彼らの役割は、データが正確かつタイムリーであり、分析と報告に利用できることを保証することです。

測定クライアントは、リスク測定の結果を意思決定の根拠として活用しますが、データの収集や保管については責任を負いません。情報所有者は、情報の品質、完全性、および承認された使用について責任を負いますが、必ずしも日々の収集については責任を負う必要はありません。リスク所有者は、データ収集プロセスの運用ではなく、特定のリスクの管理について責任を負います。

PECB ISO 31000 主任リスク管理者の観点から見ると、データ収集の明確な責任を割り当てることで、監視およびレビュー活動における信頼性、追跡可能性、一貫性が向上します。したがって、正解は「情報収集者」です。

### 質問: 13

組織がリスク管理プロセス中の相談疲労を軽減できる 1 つの方法は何ですか？

- A. より多くのフィードバックを集めるために相談会の回数を増やす
- B. 参加を円滑にするために相談者の役割を明確にする
- C. 毎回の相談セッションに同じグループの人々を参加させる
- D. すべての相談に必ず出席することを求める

正解: [\(正解を表示します\)](#)

正解はBです。協議者の役割を明確にすることで、参加を円滑に進めます。ISO 31000では、協議は目的意識を持ち、適切かつ関連性のあるものでなければならず、不必要な負担なく有意義な関与を確保する必要があると強調されています。

協議疲れは、ステークホルダーが明確な目的もなく繰り返し関与することで発生し、エンゲージメントの低下や意見の質の低下につながります。個人への協議の目的、期待される意見、そしてその意見がどのように活用されるかを明確に定義することで、組織は参加を合理化し、協議をより効率的に行うことができます。

会議の回数を増やすと、疲労を軽減するどころか、むしろ増大させます。同じグループを繰り返し関与させることで、視点の多様性が制限され、疲労が悪化します。会議への出席を義務付けると、エンゲージメントの質が低下し、ISO 31000の「包括的かつ効果的な協議」の原則に反する可能性があります。

PECB ISO 31000 主任リスク管理者の観点から見ると、役割の明確化は効率性の向上、ステークホルダーの満足度向上、そして協議が意思決定に付加価値をもたらすことにつながります。したがって、参加を円滑にするためには、協議対象者の役割を明確にすることが正解です。

### 質問: 14

ISO 31000 によれば、意思決定者やその他の利害関係者はリスク処理後に何に注意する必要がありますか？

- A. その他の潜在的なリスクの存在
- B. リスク対応活動の有効性と限界

C. 残存リスクの性質と範囲

D. リスク対応策の実施にかかる費用

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。残存リスクの性質と範囲です。ISO 31000:2018では、リスク対応を実施した後、組織は残留リスク、つまり管理策と対応策を適用した後に残るリスクを理解し、伝達する必要があることが明確に規定されています。

意思決定者と利害関係者は、残存リスクの性質（リスクの内容）と範囲（リスクのレベルと潜在的な影響）を認識し、それが許容可能か、あるいは更なる対応が必要かに関する情報に基づいた判断を下す必要があります。この認識は、説明責任、ガバナンス、そして情報に基づいたリスク受容の意思決定を支えるものです。

処理活動（オプションB）の有効性と限界を理解することは重要ですが、ISO 31000は、処理方法だけでなく、残存するリスクについてもステークホルダーに情報提供する必要があることを明確に強調しています。オプションAは一般的すぎるため、処理後の認識に特化していません。オプションDは、処理後の意思決定ではなく、実施上の考慮事項に関するものです。

PECB ISO 31000 主任リスク管理者の観点から見ると、残存リスクに関する透明性は、リスク受容が意図的であり、リスク選好度およびリスク許容度と整合していることを保証するために不可欠です。したがって、正しい答えは、残存リスクの性質と範囲です。

質問: 15

ISO 31000によれば、リスク管理の目的は何ですか？

A. 価値を創造し、守る

B. すべてのリスクを排除する

C. すべての法的要求事項への準拠を確保するため

D. 意思決定における不確実性を回避するため

正解: A ([コメントを发表する](#))

正解はAです。価値の創造と保護です。ISO 31000:2018は、リスクマネジメントの目的が価値の創造と保護であると明確に述べています。この原則はリスクマネジメントのフレームワークとプロセスの他のすべての側面の基礎となるものです。ISO 31000によれば、リスクマネジメントは、不確実性に体系的かつ情報に基づいた方法で対処することにより、パフォーマンスを向上させ、イノベーションを促進し、目標達成を支援します。

ISO 31000は、リスクマネジメントをあらゆるリスクを排除するメカニズムとして定義していません。むしろ、機会を追求し、価値を創造するためには、リスクテイクがしばしば必要であると認識しています。あらゆるリスクを排除しようとすることは非現実的であり、イノベーション、戦略的成長、そして業務の有効性を損なう可能性があります。したがって、選択肢Bは誤りです。

同様に、法規制の遵守はリスクマネジメントにおいて重要な考慮事項ですが、ISO 31000は、コンプライアンスがリスクマネジメントの唯一の目的ではないことを明確に強調しています。リスクマネジメントは、戦略、業務、財務、風評、環境、社会といったあらゆる目標

に適用され、規制遵守だけにとどまりません。したがって、選択肢Cは不完全であり、誤りです。

ISO 31000は、組織の活動と意思決定には不確実性が内在することを認めています。リスクマネジメントの目的は、不確実性を排除することではなく、情報に基づいた意思決定を支援する方法で不確実性を理解し、評価し、管理することです。したがって、選択肢Dは誤りです。

PECB ISO 31000 主任リスクマネージャーの観点から、リスク管理の究極の目的は価値の創造と保護であることを理解することが不可欠です。この原則により、リスク管理はガバナンス、戦略、そしてオペレーションに統合され、単なる防御的またはコンプライアンス重視の機能としてではなく、持続可能な成功を支えるものとなります。

#### 質問: 16

規制リスク指標 (KRI) の例はどれですか？

- A. 売掛金の支払日数の増加
- B. 従業員の補償請求
- C. 中断されたトランザクションの数
- D. 生産効率率

正解: C ([コメントを発表する](#))

正解はCです。停止された取引の数。規制リスク指標は、法律、規制、または規制上の期待に対する潜在的な違反を示す指標です。

取引停止件数は、多くの場合、違反の疑い、非準拠活動、または規制基準の違反により規制当局による管理が発動されたことを反映しています。取引停止件数の増加は、規制リスクの高まり、管理上の弱点、または新たなコンプライアンス問題の出現を示唆する可能性があります、明確な規制上のKRIとなります。

オプションA（売掛金回収日数の増加）は、主に財務リスクまたは信用リスクの指標です。オプションB（従業員の補償請求）は、主に健康リスク、安全リスク、またはオペレーショナルリスクに関連します。オプションD（生産効率率は、規制リスク指標ではなく、パフォーマンス指標です。

ISO 31000は、早期警告シグナルの提供と適時是正措置の支援のためにKRIの活用を重視しています。PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、規制上のKRIはコンプライアンス監視とガバナンス確保において重要な役割を果たします。したがって、正解は「中断された取引の数」です。

有効的なISO-31000-Lead-Risk-Manager問題集はJPNTest.com提供され、ISO-31000-Lead-Risk-Manager試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新ISO-31000-Lead-Risk-Manager試験問題集を提供します。JPNTest.com ISO-31000-Lead-Risk-Manager試験問題集はもう更新されました。ここでISO-31000-Lead-Risk-Manager問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセ

ス、<https://www.jpntest.com/shiken/ISO-31000-Lead-Risk-Manager-mondaishu>

82問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 17

シナリオ6:

トランロールは、イリノイ州シカゴに本社を置くファストフードチェーンで、ラップ、ブリトー、クイックサービススナックを専門に取り扱っており、直営店とフランチャイズ店の両方で複数の州に展開しています。同社は最近、2つの大きなリスクを特定しました。1つは、サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存度が高まっていることです。これは、契約不履行や料金の急騰により顧客サービスに支障をきたす可能性があります。もう1つは、厳格な安全衛生検査によって、一部のフランチャイズ店舗における衛生習慣の脆弱性が明らかになる可能性があるという点です。そのため、トランロールの経営陣は、ISO 31000ガイドラインに基づく構造化されたリスク管理プロセスを導入し、リスクを体系的に特定、評価、軽減することで、日常業務にリスク認識を浸透させ、将来の混乱に対するレジリエンスを強化しています。

これらのリスクに対処するため、トランロールは明確な行動計画を策定し、責任と期限を明確に定めて文書化しました。サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存に関しては、顧客体験のコントロールを失うリスクとコスト上昇のリスクが潜在的なメリットを上回ったため、サードパーティのデリバリーアプリとの計画的な提携を断念しました。フランチャイズ全体で厳格な衛生検査が実施される中、トランロールは衛生プロトコルの強化、従業員研修の義務化、監視システムのアップグレードに投資し、違反の可能性を低減しました。しかし、経営陣はこれらの対策を講じても、依然としてリスクが残ることを認識していました。このリスクに対処するため、同社は保険手段の一つを活用し、予期せぬ損失や罰金に備えて社内の資金を留保することで、残存リスクを許容範囲内に抑えることにしました。

さらに、Trunrollはリスク記録を文書化・管理するためのクラウドベースのプラットフォームを構築しました。これにより、マネージャーはサプライヤーの検査結果、トレーニングの成果、インシデントレポートを1つの安全なシステムに記録できるようになり、基盤となるインフラストラクチャを管理することなく、必要に応じてアプリケーションを更新・拡張できる柔軟性も得られました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に答えてください。

トランロールは、どのような種類のリスクに対して、予期せぬ損失や罰金をカバーするために内部の財源を確保する保険手法を使用しましたか？

- A. 残留リスク
- B. 固有のリスク
- C. ターゲットリスク
- D. 新たなリスク

正解: A ([コメントを发表する](#))

正解はAです。残留リスクです。ISO 31000では、残留リスクはリスク対応策を適用した後に残るリスクと定義されています。組織は、残留リスクをどのように管理するか、つまり、リスクを受け入れるか、監視するか、あるいはさらに対応すべきかを決定する必要があります。

シナリオ6では、Trunroll社は衛生プロトコル、従業員研修、監視システムのアップグレードなど、健康と安全の検査に関する複数のリスク低減策を実施しました。しかし、経営陣はこれらの対策を実施した後も、ある程度のリスクが残ることを認識していました。この残存リスクを管理するため、Trunroll社は予期せぬ損失や罰金を補填するための社内資金を確保しました。

このアプローチは、固有リスク（統制以前に存在するリスク）や目標リスク（望ましいリスクレベル）ではなく、残余リスクの管理に直接対応しています。Trunrollは、財務リソースを確保することで、残余リスクが許容範囲内に収まるようにしました。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、残留リスクを明確に認識し管理することは、効果的なガバナンスと説明責任を果たす上で不可欠です。したがって、正解は「残留リスク」です。

#### 質問: 18

##### シナリオ2:

バンビーノはイタリアのフィレンツェに本社を置く家具メーカーで、テーブル、椅子、子供用ベッド、棚、マット、おむつ交換台、室内用プレイハウスなど、保育施設向け家具を専門としています。サプライチェーンの大規模な混乱により遅延が発生し、オペレーションの脆弱性が明らかになったことを受け、バンビーノはリスクを体系的に特定、評価、管理するために、ISO 31000ガイドラインに基づくリスク管理フレームワークとプロセスを導入することを決定しました。

このプロセスの最初のステップとして、経営陣は、リスク認識、コミュニケーション、構造化された実践が日常の意思決定の一部となるように、フレームワークの導入と会社の業務への統合を促進するために、バンビーノの業務マネージャーであるルカを任命しました。ルカは就任後、各部門における責任と意思決定の分担を見直しました。各部門は、戦略、管理、運営に関わる事項を担当するディレクターによって統括されています。同時に、経営陣と協議しながら、バンビーノのより広範な環境、すなわちミッション、ガバナンス、文化、リソース、情報の流れ、ステークホルダーとの関係を分析しました。

これを踏まえ、ルカはステークホルダーの関与、プロセスの段階的分割、そして目標と会社の目標の整合性を図ることで、リスク管理を強化するための具体的なアクションを概説しました。進捗状況は既存のシステムを通じて追跡され、タイムリーな調整が可能になりました。さらに、明確な目標がミッションと戦略に紐付けられ、責任が明確化され、リーダーシップがコミットメントを示し、日々の統合に対する期待が明確化されました。最後に、人材、スキル、テクノロジーのためのリソースが割り当てられ、コミュニケーション、報告、エスカレーションのメカニズムがサポートされました。

さらに、ルカ氏は、子供用製品に関する安全法、現地の労働規制、事業運営に必要な許可など、会社が遵守すべき要件を見直しました。また、サステナビリティラベルや保育施設との契約といった自主的な取り組みについても検討しました。この見直しを通じて、これらの要件を満たさなかった場合に発生する可能性と、法的罰則から顧客の信頼失墜に至るまでの潜在的な結果を特定し、この領域がリスク要因となることを明確化しました。これには、製品安全法違反に対する罰金、労働規制違反に対する制裁、そしてサステナビリティや契約上のコミットメントが履行されなかった場合の評判の低下などが含まれます。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に教えてください。

シナリオ2で述べたように、ルカはバンビーノが関連法令を遵守しない可能性とその潜在的な結果を特定しました。このケースでは、彼は何を特定しましたか？

A. コンプライアンスパフォーマンス

B. コンプライアンス義務

C. コンプライアンスリスク

D. コンプライアンス管理

正解: C ([コメントを发表する](#))

正解はCです。コンプライアンスリスクです。ISO 31000では、リスクは「不確実性が目標に及ぼす影響」と定義されており、発生確率と結果の組み合わせで表現されます。ルカは、法律、規制、許可、自主的なコミットメントへの不遵守の可能性、および罰金、制裁、風評被害といった関連する影響を評価した際に、コンプライアンスリスクを明確に特定していました。

コンプライアンス義務とは、組織が遵守しなければならない、あるいは遵守することを選択した法律、規制、規格、および自主的なコミットメントを指します。このシナリオでは、これらの義務には、製品安全法、労働規制、許可、持続可能性に関する協定などが含まれます。しかし、ルカはさらに踏み込み、これらの義務が遵守されなかった場合に何が起こるかを分析しました。これがリスクの特定と分析の本質です。

コンプライアンスパフォーマンスとは、バンビーノが現在どの程度コンプライアンスを遵守しているかを測定することであり、コンプライアンス管理とは、遵守を確実にするために実施される措置を指します。どちらの用語も、不確実性、発生可能性、そして結果に焦点を当てた前述の活動を反映していません。

PECB ISO 31000 主任リスクマネージャーの観点から見ると、コンプライアンスリスクの特定はリスクの特定と分析の重要な部分であり、組織が行動の優先順位を決定し、リソースを割り当て、価値を保護することを可能にします。したがって、正解はコンプライアンスリスクです。

質問: 19

シナリオ4:

スペイン、バルセロナに本社を置く Solenco Energyは、南ヨーロッパ全域で複数の太陽光発電所と風力発電所を運営する再生可能エネルギー事業者です。機器の定期的な故障やサプライヤーの遅延により発電量に影響が出たため、同社は組織のレジリエンスを確保し、

混乱を最小限に抑え、長期的なパフォーマンスを維持するため、ISO 31000に準拠したリスク評価を開始しました。

エンジニアリング、財務、オペレーション、ロジスティクスの各部門の代表者を含む、部門横断的なリスクチームが編成されました。チームは、エネルギー生産プロセスの体系的かつ体系的なレビューを開始し、想定された運用条件からの潜在的な逸脱を特定し、その原因と結果を評価しました。「高すぎる」「低すぎる」「予想外」といったプロンプトを用いたガイド付きディスカッションを通して、システム挙動の変動がどのように運用上の混乱や安全リスクにつながる可能性があるかを検討しました。

特定されたリスクの一つは、同社の主要な太陽光発電施設の一つにおける主電力インバータシステムの故障でした。これは、生産量への依存度が高い単一障害点でした。このリスクをより深く理解するために、チームは構造化された視覚的手法を用いて、インバータの故障に至る原因と、その潜在的な結果をマッピングしました。また、両方のリスクを防止または軽減するための対策も示しました。

議論の中で、チームメンバーの何人かは、インバータの信頼性を裏付ける肯定的な証拠に焦点を当てる傾向があり、保守報告書の矛盾するデータについてはあまり考慮していませんでした。多くの参加者が、故障の可能性は低いというグループ全体の見解に自信を持って同意したため、異なる視点についてはすぐには議論されませんでした。サプライヤーの報告書を詳細に検討した後で初めて、チームは仮定を再検討し、それに応じて分析を調整しました。

最終的に、年間のシステム監視および保守記録に基づき、障害発生の可能性は「あり得る」と判断されました。しかし、その影響は深刻で、ダウンタイム1週間あたり推定45万ユーロの収益損失、契約違反による違約金、ステークホルダーからの否定的な評価などが生じる可能性があります。チームは、障害1件あたり2週間のダウンタイムを想定し、1件あたり90万ユーロの潜在的損失を想定しました。

このリスクの財務的影響をより正確に定量化するために、チームは推定故障確率（10%）に1件あたりの潜在的損失（90万ユーロ）を乗じ、年間9万ユーロという予測影響額を算出しました。この計算により、リスクレジスターにおける他のリスクと比較して、インバータ故障リスクの優先順位付けをより明確にする根拠が得られました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に答えてください。

ソレンコのチームは、インバーターの故障の可能性と結果を調査して、どのような結論を下したのでしょうか？

- A. リスクのレベル
- B. リスク受容の基準
- C. リスク許容度
- D. リスク選好度

正解: ([正解を表示します](#))

正解はAです。リスクのレベルです。ISO 31000:2018では、リスクレベルはリスクの大きさと定義されており、一般的には事象の発生確率とその結果の組み合わせとして表現されま

す。リスクレベルの決定は、リスクの本質と特性を理解することを目的とするリスク分析の中核的な成果です。

シナリオ4では、ソレンコチームはインバーター故障の発生確率（可能性あり」、10%と定量化）と、その影響（1件あたり90万ユーロ）の両方を明確に評価しました。そして、これらの要素を組み合わせ、年間9万ユーロという予測影響額を算出しました。この発生確率と影響度の定量的な組み合わせは、リスクレベルの決定に直接反映され、リスクレジスター内での比較と優先順位付けを可能にします。

リスク受容基準とリスク許容度は、リスクが受容可能か、あるいは対応が必要かを判断する意思決定の閾値に関係しています。これらは、リスク分析中に計算されるのではなく、状況の確立とリスク基準の設定段階で定義されます。リスク選好度とは、組織が許容するリスクの量と種類を指し、戦略レベルの概念であり、発生確率と結果から計算されるものではありません。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、リスクレベルの算出は、情報に基づいたリスク評価と優先順位付けに役立ちます。これにより、組織はリソースを効果的に配分し、価値創造と価値保護を脅かすリスクに重点的に取り組むことができます。したがって、正しい答えはリスクレベルです。

#### 質問: 20

組織はどのような基準で残留リスクの許容可能性を判断すべきでしょうか？

- A. リスクは、制御の柔軟性を許容するために、残余レベルが目標リスクよりも高い場合にのみ許容されます。
- B. すべての残留リスクが最小限に抑えられるように、ターゲット リスクは常に低いレベルに設定する必要があります。
- C. 残余リスクは、目標リスクと同等かそれ以下の場合に受け入れられます。
- D. 治療コストが潜在的な利益を上回る場合、残留リスクが受け入れられます。

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。残留リスクは、目標リスクと同等かそれ以下の場合に受容されます。ISO 31000:2018では、リスク対応の目的は、リスクを組織のリスク基準（リスク選好度、許容度、目標リスクレベルなど）に適合するように修正することであると説明されています。残留リスクとは、リスク対応を適用した後に残るリスクです。

組織は、残留リスクを事前に定義された目標リスクまたはリスク受容基準と比較することで、受容可能性を判断します。残留リスクが受容可能な範囲内、つまり目標リスクと同等かそれ以下である場合、それ以上の処理を行わずに受容することができます。これにより、一貫性、透明性、そして戦略目標との整合性が確保されます。

選択肢Aは誤りです。目標リスクよりも高いリスクを受け入れることは、リスク基準の目的に反します。選択肢Bは誤りです。目標リスクレベルは、目的、状況、リスク許容度によって異なり、必ずしも低いとは限らないからです。選択肢Dは意思決定に影響を与える可能性があります、ISO 31000で定義されている正式な基準ではありません。

PECB ISO 31000 主任リスク管理者の観点から見ると、明確な受容基準は、規律ある、かつ妥当なリスク判断を確実にします。したがって、残留リスクは、目標リスクと同等かそれ以下の場合に受容されるというのが正解です。

**質問: 21**

**シナリオ6:**

トランロールは、イリノイ州シカゴに本社を置くファストフードチェーンで、ラップ、ブリトー、クイックサービススナックを専門に取り扱っており、直営店とフランチャイズ店の両方で複数の州に展開しています。同社は最近、2つの大きなリスクを特定しました。1つは、サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存度が高まっていることです。これは、契約不履行や料金の急騰により顧客サービスに支障をきたす可能性があります。もう1つは、厳格な安全衛生検査によって、一部のフランチャイズ店舗における衛生習慣の脆弱性が明らかになる可能性があるという点です。そのため、トランロールの経営陣は、ISO 31000ガイドラインに基づく構造化されたリスク管理プロセスを導入し、リスクを体系的に特定、評価、軽減することで、日常業務にリスク認識を浸透させ、将来の混乱に対するレジリエンスを強化しています。

これらのリスクに対処するため、トランロールは明確な行動計画を策定し、責任と期限を明確に定めて文書化しました。サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存に関しては、顧客体験のコントロールを失うリスクとコスト上昇のリスクが潜在的なメリットを上回ったため、サードパーティのデリバリーアプリとの計画的な提携を断念しました。フランチャイズ全体で厳格な衛生検査が実施される中、トランロールは衛生プロトコルの強化、従業員研修の義務化、監視システムのアップグレードに投資し、違反の可能性を低減しました。しかし、経営陣はこれらの対策を講じても、依然としてリスクが残ることを認識していました。このリスクに対処するため、保険手段の一つとして、予期せぬ損失や罰金に備えて社内の資金を留保し、残存リスクを許容範囲内に抑えることにしました。

さらに、Trunrollはリスク記録を文書化・管理するためのクラウドベースのプラットフォームを構築しました。これにより、マネージャーはサプライヤーの検査結果、トレーニングの成果、インシデントレポートを1つの安全なシステムに記録できるようになりました。また、基盤となるインフラストラクチャを管理することなく、必要に応じてアプリケーションを更新・拡張できる柔軟性も確保しました。これにより、Trunrollはすべてのリスク関連情報を進捗報告書に記録し、中間評価と最終評価に組み込むとともに、リスク管理を定期的に更新して変更と対応状況を監視できるようにしました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に答えてください。

シナリオ 6 に基づいて、予期しない損失や罰金をカバーするために内部の財源を確保するために、Trunroll はどの保険方法を使用しましたか？

- A. 自己保険
- B. 準備金
- C. 条件付き信用枠
- D. リスクプーリング

正解: ([正解を表示します](#))

正解はA. 自己保険です。ISO 31000は、すべてのリスクを完全に排除または移転できるわけではないことを認識しており、組織は潜在的な損失を吸収するのに十分な財務能力を確保しながら、残存リスクを保有することを選択できるとしています。

シナリオ6では、Trunrollは、安全衛生検査の結果から生じる予期せぬ損失や罰金をカバーするために、社内の資金を明示的に確保していました。このアプローチは、組織がリスクを外部保険会社に移転するのではなく、潜在的な損失をカバーするために意図的に自社の資金を確保する自己保険と直接的に一致しています。

準備金は口語的に言及されることがありますが、ISO 31000およびPECBガイダンスに基づくリスク管理用語では、自己保険は内部の財務引当を含む正式なリスク対応アプローチです。コンティンジェント・クレジットラインは借入契約を伴いますが、これはシナリオでは説明されていません。リスクプーリングは複数の事業体間でリスクを共有することを意味しますが、これもまた発生しませんでした。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、リスクが予測可能で管理可能であり、組織のリスク許容度の範囲内にあり、かつ組織が十分な財務力を有している場合、自己保険は適切です。Trunroll社の決定により、事業継続性を維持しながら、残存リスクを許容範囲内に抑えることができました。

したがって、正解は自己保険です。

質問: 22

COSO ERM フレームワークでは、リスクが目標達成にどのように影響するかを評価し、目標に沿った対策を適用することに重点を置いているコンポーネントはどれですか。

- A. レビューと修正
- B. パフォーマンス
- C. 戦略と目標設定
- D. ガバナンスと文化

正解: ([正解を表示します](#))

正解はB. パフォーマンスです。COSO ERMフレームワークにおけるパフォーマンスの構成要素は、組織の目標達成に影響を与える可能性のあるリスクの特定、評価、優先順位付け、そして対応に重点を置いています。この構成要素は、リスクの重大性とパフォーマンスへの影響度を理解し、組織が目標達成に向けて適切なリスク対応を実施できるよう支援します。

パフォーマンスの構成要素には、リスクの特定、発生可能性と影響の評価、リスクの優先順位付け、リスク対応の実施といった活動が含まれます。これは、ISO 31000のリスクマネジメントプロセス、特にリスクの特定、リスク分析、リスク評価、リスク対応のステップと密接に連携しています。どちらのフレームワークも、リスクが目標にどのように影響するかを理解することが、情報に基づいた意思決定と価値創造に不可欠であることを強調しています。

オプションA「レビューと改訂」は、企業リスク管理システムが長期にわたってどの程度機能しているかを評価し、改善点を特定することに重点を置いています。これは重要ですが、リスクが目標達成にどのように影響するかを評価することには主眼を置いていません。

オプションC「戦略と目標設定」は、戦略目標の定義と目標設定時のリスクの考慮に関連しますが、継続的なリスク評価と対応には焦点を当てていません。

オプションD「ガバナンスと文化」は、目標に対するリスクの影響の運用上の評価ではなく、監視、倫理的価値観、およびリスク文化に関するものです。

PECB ISO 31000主任リスク管理者の観点から見ると、COSO ERMのパフォーマンス要素を理解することは、リスク管理をパフォーマンス管理と意思決定に統合する必要があるというISO 31000の原則を強化することになります。したがって、正解は「パフォーマンス」です。

### 質問: 23

#### シナリオ6:

トランロールは、イリノイ州シカゴに本社を置くファストフードチェーンで、ラップ、ブリトー、クイックサービススナックを専門に取り扱っており、直営店とフランチャイズ店の両方で複数の州に展開しています。同社は最近、2つの大きなリスクを特定しました。1つは、サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存度が高まっていることです。これは、契約不履行や料金の急騰により顧客サービスに支障をきたす可能性があります。もう1つは、厳格な安全衛生検査によって、一部のフランチャイズ店舗における衛生習慣の脆弱性が明らかになる可能性があるという点です。そのため、トランロールの経営陣は、ISO 31000ガイドラインに基づく構造化されたリスク管理プロセスを導入し、リスクを体系的に特定、評価、軽減することで、日常業務にリスク認識を浸透させ、将来の混乱に対するレジリエンスを強化しています。

これらのリスクに対処するため、トランロールは明確な行動計画を策定し、責任と期限を明確に定めて文書化しました。サードパーティのデリバリープラットフォームへの依存に関しては、顧客体験のコントロールを失うリスクとコスト上昇のリスクが潜在的なメリットを上回ったため、サードパーティのデリバリーアプリとの計画的な提携を断念しました。フランチャイズ全体で厳格な衛生検査が実施される中、トランロールは衛生プロトコルの強化、従業員研修の義務化、監視システムのアップグレードに投資し、違反の可能性を低減しました。しかし、経営陣はこれらの対策を講じても、依然としてリスクが残ることを認識していました。このリスクに対処するため、保険手段の一つとして、予期せぬ損失や罰金に備えて社内の資金を留保し、残存リスクを許容範囲内に抑えることにしました。

さらに、Trunrollはリスク記録を文書化・管理するためのクラウドベースのプラットフォームを構築しました。これにより、マネージャーはサプライヤーの検査結果、トレーニングの成果、インシデントレポートを1つの安全なシステムに記録できるようになりました。また、基盤となるインフラストラクチャを管理することなく、必要に応じてアプリケーションを更新・拡張できる柔軟性も確保しました。これにより、Trunrollはすべてのリスク関連情

報を進捗報告書に記録し、中間評価と最終評価に組み込むとともに、リスク管理を定期的に更新して変更と対応状況を監視できるようにしました。

上記のシナリオに基づいて、次の質問に教えてください。

サードパーティの配信プラットフォームへの依存度が高まるリスクに対処するために、Trunroll はどのリスク処理オプションを使用しましたか？

- A. リスク修正
- B. リスク回避
- C. リスク共有
- D. リスク保持

正解: ([正解を表示します](#))

正解はB「リスク回避」です。ISO 31000では、リスク対応とは、リスクに対処するための選択肢を選択し、実施することと定義されており、これにはリスクを引き起こす活動を開始または継続しないことを決定することでリスクを回避することも含まれます。

シナリオ6では、Trunrollはサードパーティのデリバリープラットフォームとの計画的な提携を断念することを明確に決定しました。これは、顧客体験のコントロールの喪失と手数料の急激な上昇といった潜在的なリスクが、期待されるメリットを上回ると判断したためです。これらの提携を一切行わないことを選択することで、Trunrollはリスクの源泉を完全に排除しました。

これは、ISO 31000に記載され、PECBのISO 31000主任リスク管理者研修資料でも強調されている、リスク回避の教科書的な例です。リスク回避は、ある活動が許容できないリスクをもたらし、その活動に従事することなく目標を達成できる代替手段が存在する場合に適切です。

リスク修正とは、リスクの発生確率や影響を軽減しつつ、活動を継続することを指しますが、Trunrollはデリバリープラットフォームにおいてはこれを行いませんでした。リスク共有とは、契約や保険などを通じてリスクの一部を他の当事者に移転することを指しますが、これも今回のケースでは行われませんでした。リスク留保は、リスクが故意に受け入れられた場合に適用されますが、今回のケースではそうではありませんでした。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、デリバリー・プラットフォームとの提携を避けることは、Trunrollのリスク許容度と戦略目標に合致した、綿密かつ十分な情報に基づいた決定でした。したがって、正しい答えはリスク回避です。

質問: 24

最も適切なリスク処理オプションを選択する際に、組織が考慮すべきことは何ですか？

- A. 実装の他の利点を考慮せずに、コストと必要なリソースのみ
- B. 治療の潜在的な利点のみ、費用や労力は考慮しない
- C. 目標を達成することで得られる潜在的な利益と、実装にかかるコスト、労力、またはデメリットとのバランス
- D. 実現可能性に関係なく、最もリスクを排除するオプション

正解: ([正解を表示します](#))

正解はCです。目標達成における潜在的な利益と、実施に伴うコスト、労力、またはデメリットとのバランスです。ISO 31000では、リスク対応の意思決定は、適切なバランスを取り、十分な情報に基づいて、価値に焦点を当てるべきであると強調されています。

リスク対応策の選択には、トレードオフを評価する必要があります。組織は、対応策が目標達成にどの程度貢献するかを検討すると同時に、そのコスト、必要なリソース、業務への影響、潜在的なデメリットも評価する必要があります。このバランスの取れたアプローチにより、リスク管理は不必要な負担を強いるのではなく、価値を守り、創造することにつながります。

選択肢Aは誤りです。コストのみに焦点を当てると、効果と価値創造が軽視されるからです。選択肢Bも同様に欠陥があり、コストと労力を無視すると、持続不可能な、あるいは非現実的な解決策につながる可能性があります。選択肢Dは、ISO 31000が重視する実現可能性、比例性、そして状況との整合性に反しています。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、効果的なリスク対応とは、最も積極的な選択肢を自動で選択するのではなく、情報に基づいた選択を行うことです。したがって、正しい答えは、メリットとコスト、労力、デメリットのバランスを取ることです。

#### 質問: 25

組織が必ず遵守しなければならないリスク管理関連の要件の例は何ですか？

- A. 許可証、ライセンス、またはその他の承認形式
- B. 組織との契約上の取り決めに基いて発生する義務
- C. ポリシーや手順などの組織要件
- D. 業界自主ガイドライン

正解: A ([コメントを発表する](#))

正解はAです。許可証、免許証、またはその他の認可です。ISO 31000では、組織はリスクマネジメントの枠組みを確立する際に、必須要件を考慮する必要があります。必須要件とは、法律や規制によって課せられ、法的拘束力を持つ要件です。これらの要件を遵守しないと、制裁、罰金、または操業権の剥奪を受ける可能性があります。

許可証、ライセンス、認可などは、義務的なコンプライアンス義務の典型的な例です。組織は、活動を合法的に行うために、これらを取得し、維持しなければなりません。ISO 31000では、義務的要求事項への不遵守は重大なリスク源であり、適切に特定、分析、管理する必要があることが強調されています。

オプションBは契約上の義務を指し、法的拘束力はあるものの、管轄区域内のすべての組織に適用される法的義務ではなく、自主的な合意から生じるものです。オプションCは内部要件を指し、自主的に課されるものであり、法的観点からは強制力がありません。オプションDは自主的なガイドラインであり、法的強制力はありません。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、リスクを正確に特定し、優先順位を付けるには、必須要件と任意要件を区別することが不可欠です。必須要件は通常、より大きな影響を伴うため、適切な注意を払う必要があります。したがって、正しい答えは許可、ライセンス、またはその他の形式の認可です。

質問: 26

ISO 31000 によれば、経営トップと監督機関はリスク管理への取り組みをどのように示すことができますか？

- A. 組織の目標とリスク管理への取り組みを明確に示すポリシーを策定し、周知することにより
- B. リスク管理の実践における柔軟性を維持するために正式な文書化を避けることで
- C. リスク関連事項すべてを外部の専門家に委託することで
- D. すべてのリスク責任を運用管理者に委任することにより

正解: ([正解を表示します](#))

正解はAです。組織の目標とリスクマネジメントへのコミットメントを明確に示す方針を策定し、周知徹底することです。ISO 31000:2018は、リスクマネジメントフレームワークの基盤要素として、リーダーシップとコミットメントを重視しています。経営トップと監督機関は、方向性を定め、組織目標との整合性を確保し、リスクマネジメント活動を目に見える形で支援することで、コミットメントを示すことが期待されています。

ISO 31000は、リスク管理方針の策定、資源の配分、責任の割り当て、そしてリスク管理をガバナンスと意思決定に確実に統合するといった行動を通じて、リーダーシップのコミットメントを示すべきであると明確に規定しています。明確に伝達された方針は、組織のリスクへのアプローチに関する共通理解を提供し、期待を強化し、あらゆるレベルで一貫した行動を促進します。

選択肢Bは誤りです。ISO 31000は文書化を避けることを推奨していません。柔軟性は重要ですが、ポリシーやフレームワークなどの正式な文書化は、透明性、一貫性、そして説明責任を確保する上で不可欠です。選択肢Cは誤りです。外部専門家への依存はリーダーシップの責任に取って代わるものではなく、リスク管理の説明責任は組織に残ります。選択肢Dも誤りです。リーダーシップの関与なしに権限委譲を行うことは、ISO 31000が重視するトップマネジメントの責任と矛盾します。

PEECB ISO 31000 主任リスク管理者の観点から見ると、リスク管理を組織文化と業務に根付かせるには、リーダーシップによる目に見える形で文書化されたコミットメントが不可欠です。したがって、選択肢Aが正解です。

質問: 27

組織は外部コンテキストを調査する際にどの要素を分析する必要がありますか？

- A. 組織が採用している標準、ガイドライン、モデル
- B. 契約関係と義務
- C. 組織の目標に影響を与える主要な推進要因と傾向
- D. 社内ポリシーと手順

正解: C ([コメントを发表する](#))

正解はCです。組織の目標に影響を与える主要な推進要因と傾向です。ISO 31000:2018では、リスクマネジメントプロセスの一環として、組織は外部状況を把握することが求められています。外部状況には、組織の目標達成能力に影響を与える外部要因が含まれます。

ISO 31000によると、外部環境の分析には、政治、経済、社会、技術、法務、環境、市場関連の要因の分析が含まれます。これらは、規制の変更、経済状況、市場動向、技術開発など、主要な推進要因やトレンドと呼ばれることがよくあります。

オプションAは、外部環境ではなく、内部ガバナンスと方法論の選択に関係します。オプションBの契約関係は、外部の当事者が関与する場合がありますが、内部の義務や取り決めに関連する場合は、一般的に組織の内部コンテキストの一部とみなされます。オプションDは、明らかに内部コンテキストの要素に言及しています。

PECB ISO 31000 主任リスクマネージャーの観点から見ると、外部要因とトレンドを理解することは、新たなリスクと機会を予測し、適切なリスク基準を設定するために不可欠です。したがって、正解は、組織の目標に影響を与える主要な要因とトレンドです。

#### 質問: 28

OCTAVE フレームワークのフェーズIではどのようなアクティビティが実施されますか？

- A. 重要な資産をITコンポーネントにマッピングして、システムの弱点を明らかにする
- B. 資産、脅威、要件を特定してベースラインのセキュリティニーズを確立する
- C. 発生可能性と影響度に基づいてリスクを優先順位付けし、保護戦略を導く
- D. リスク処理オプションの選択と実装

正解: ([正解を表示します](#))

正解はBです。資産、脅威、要件を特定することで、ベースラインのセキュリティニーズを確立します。OCTAVE（運用上重要な脅威、資産、脆弱性評価）フレームワークは、情報セキュリティに対するリスクベースのアプローチであり、フェーズIでは、重要な資産、セキュリティ要件、および関連する脅威に関する組織的な知識の構築に重点を置いています。

フェーズIでは、情報資産、運用資産、そしてそれらのセキュリティニーズなど、組織にとって何が重要かを特定することに重点が置かれます。このフェーズでは、技術的なテストよりも、社内の知識とステークホルダーからの意見に大きく依存します。このアプローチは、ISO 31000が重視するコンテキストの確立と包括性と一致しており、効果的なリスク特定には、社内のコンテキストを理解し、ステークホルダーの関与が不可欠です。

オプションAは、OCTAVEの後半のフェーズに対応し、技術分析とインフラストラクチャの検査が行われます。オプションCは、資産と脅威が特定された後に行われるリスク分析および評価活動に密接に関連しています。オプションDは、フェーズIIには含まれないリスク対応活動を反映しています。

PECB ISO 31000主任リスクマネージャーの観点から見ると、OCTAVEフェーズIIは、リスク管理は分析と対応に移る前に、資産、目標、脅威を理解することから始まるべきことを示しています。これは、ISO 31000の構造化された包括的なリスク管理アプローチを強化するものです。

新**ISO-31000-Lead-Risk-Manager**試験問題集を提供します。JPNTest.com ISO-31000-Lead-Risk-Manager試験問題集はもう更新されました。ここで**ISO-31000-Lead-Risk-Manager**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/ISO-31000-Lead-Risk-Manager-mondaishu>  
**82問、30%ディスカウント、特別な割引コード: JPNshiken」**